

# 里海コラム

Vol.2  
2023.05

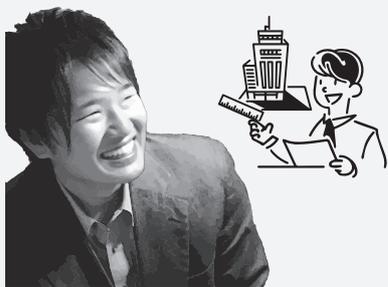
SATOUMI COLUMN

江田島市のかげがえのない地域資源を多くの人に知ってもらい  
生かしていく社会システムが出来上がることを目標とし  
世界に発信するためのキーワードである”里海”を探求していきます！

プロセス：里海暮らし→里海連携→里海拠点

## 里海とは？

人と自然の関わり合いによる循環構造によって、  
文化が醸成され、環境の好循環が起きる沿岸海域

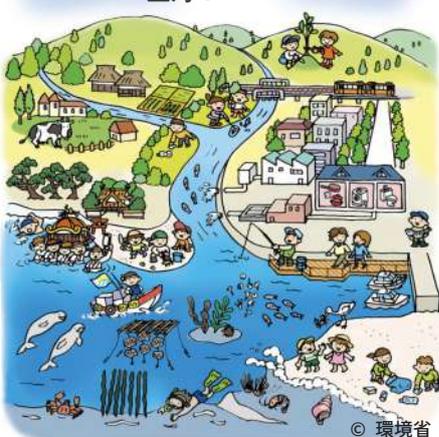


地域おこし協力隊 - 守本怜矢  
二級建築士・宅地建物取引士  
さとうみ科学館附属

1994.05.02 尾道市向島出身  
大学時代：中山間地域における  
古民家と地域コミュニティの研究  
2018-2019：江田島市沖美町における  
海上レストラン事業企画設計担当  
2019-2022：建築事務所で店舗設計  
施工管理・CG制作を経験後、現職  
県立広島大学経営管理研究科在籍

地元尾道のまちづくりによって、  
町が元気になる様子を見て育ち  
自分も夢あふれる楽しいまちを  
作る人になりたいと志し建築の道へ  
大好きな瀬戸内海をもっと世界に  
発信したいと日々奔走している。

里海イメージ



© 環境省

## こんなことを思い描いています！

昨年度より配属させてもらったさとうみ科学館は、江田島の多様な  
自然環境を生かし、海の生き物を子ども達と一緒に研究し学びを  
提供する、自然科学に特化した教育機関でした。

そこで教育に関わる中で、そもそも”里海”とは  
何なのかを疑問に思い読んだのが右の本です。  
これはNHK広島が独自で調査した、瀬戸内海の  
貴重な地域資源である里海を資本と捉え価値を  
読み解いた著書でした。ここで、日本人が元来  
持っていた自然を崇め共に生きてきた独自の文  
化感がこの自然との適切な関わりあいが営まれ  
てきたと学び、僕はこれは江田島の地域ブラン  
ディングとして発信すれば、多くの方に価値を  
感じてもらえる物だと思い、里海を強く掲げるようになりました。



しかし、この概念は非常に包括的で奥深いため、一言で表すことは  
非常に難しく、感覚として理解するにもなかなか難しいため、  
僕は、下記の3ステップで具体的なアプローチに取り組むことが  
皆さんにも価値を感じてもらえるのではないかと考えました！

次回のコラムでは、一番目の里海暮らしのステップについて  
説明していこうと思いますので、お楽しみに！！

## 里海暮らし ▶ 里海連携 ▶ 里海拠点

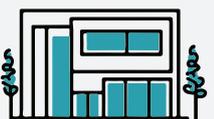
認知



共感



拡散



# 里海のいろは

概念が広く奥深い里海ってどんなところなんだろうか

**Satoumi 概念が世界に発信された！** 世界の反応はいかに。

## 閉鎖海域の課題の解決策として 賞賛された Satoumi 概念

1997年のストックホルム国際会議で、柳哲雄教授より世界に発信された里海という概念ですが、当初は一部の研究者から自然に人の手を加えるという考え方が受け入れられなかったそうです。この背景には日本人の自然に適度に関わる文化感が海外では異質であったことが背景にあるようでした。

しかし、2000年代に入り自然を野生のままにしている、課題が顕著になる一方であると課題感が急速に高まり Satoumi 概念は一気に注目されるようになったようです。

## SDGs が叫ばれるからこそその里海の重要性

経済と環境の両立が求められるようになった現代において、里海という概念は、国の政策にも組み込まれている重要な考え方である以上、我々はそういった要素を取り込むことが、より地域としての価値を高める方法であるのではないのでしょうか。



出典：放送大学 HP



## あとがき

筆者自身が現在進めている活動や取り組みに対する思い  
今後やっていきたいことなどをつらつら書いてみます。

先日、広島大学都市計画研究室とコラボして、江田島視察ツアーを実施しました！  
里海にある資源をどのようにまちづくりとして活かしていくのか。その一助とするため  
都市計画の視点を織り交ぜた、研究・普及の方法を模索していくため、学生たちと共に  
秋月地区を中心としたまちあるきを行ったのち、江田島の主要な要素が見られるエリアを  
巡り、どんな空気感があり、どんな人たちが暮らしている  
町なのかを知ってもらうことを目的に実施いたしました。  
とても大きくとても多様な島である江田島は、こういった  
要素があるのかを、文化と環境の側面から説明し、視察を  
通じて、より深く知って貰えたのではと思います！

